

取扱説明書

RAYCOP MILK MATE



目次

お使いになる前に.....	2
安全上のご注意.....	2
製品仕様と各部のなまえ.....	3

お使いになる際に.....	4
簡単な使用方法.....	4
前面の表示パネルと操作部の説明.....	5
モードの説明.....	6
水量の微調整.....	9
追加機能の説明.....	11

お手入れ.....	12
お使いになる前の 研磨剤除去および洗浄方法.....	12
洗浄およびお手入れ方法.....	13

使用中お困りの際は.....	15
よくある質問.....	15
保証書.....	16

● 本製品を使用する前に、必ず本取扱説明書をお読みの上、正しく安全にお使いください。
本取扱説明書は必ず保管してください。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための説明です。以下の説明をよく読んで正しくご使用ください。

⚠ 注意

- 湯を湧かす以外の目的で使用しない。
- 水以外のものを入れたり、沸かしたりしない。
- MAX ライン以上の水を入れて使用しない。
MAX ライン以上に水を入れて使用すると吹きこぼれや、やけど、機器の故障の原因となります。
- 高い所から落とすなど、強い衝撃を与えない。
- 湯沸かし中に製品を動かさない。
背面の蒸気口から湯のふきこぼれや、やけどの恐れがあります。
- 蒸気口に触れたり、顔を近づけない。
排出される蒸気により、やけどの恐れがあります。
- 製品破損や、異常時には製品の使用を直ちに中止する。
- 水を入れず製品を動作させたり、空だきをしない。

⚠ 警告

製品設置の際

製品の故障または感電・火災・やけど・けがの原因になります。

- 不安定な場所で使用しない。
やけど・けがの恐れや、振動や騒音発生の原因になります。
- 水または雨水が当たる場所や湿気の高い場所に設置しない。
- 火気または可燃性物質（ジエチルエーテル、ベンゼン、LP ガスなど）の近くで使用しない。
- 製品の使用中に排出される高温の蒸気によって棚や周辺の物が損傷しないよう、製品付近には十分なスペースを確保する。
- 本製品は、家庭用またはそれに類似する環境でのみ使用してください。

電源

ショート、リーク、絶縁不良、熱などによる火災・感電の原因になります。

- 交流 100V のコンセント以外では使用しない。
本製品は 100V 専用です。
- 定格 15A 以上のコンセントを単独で使用する。
電源タップに他の機器と併用して接続すると、コンセント部が異常発熱し、火災の恐れがあります。
- 差し込みプラグを何度も繰り返してコンセントに差し抜きしない。
- 濡れた手で電源コードに触れない。差し込みプラグが濡れている場合には製品を使用しない。
- 差し込みプラグを抜くときは、電源コードを持たず必ず先端の差し込みプラグを持って抜く。

- 長時間使用しない場合は、差し込みプラグをコンセントから抜く。
- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを乗せない。
コードが損傷する恐れがあります。
- 製品本体を水や液体に浸けない。
ショート・感電の恐れがあります。

使用上の注意点

絶縁・接地面の損傷は感電・火災・傷害の原因になります。

- 製品を洗浄する際は、表面が粗いものや金属質のブラシ、布、たわしなどは使用しない。
- 製品から異常な音・匂い・煙などが発生する場合は、直ちに使用を中止する。
差し込みプラグをコンセントから抜き、弊社のサービスセンターへご相談ください。
- レイコップサービスセンター修理技術者以外の人は製品を分解・修理・改造しない。
- 製品を子どもだけで使わせたり、幼児の手の届く場所に置かない。
- 重いものや割れやすいもの、液体類、可燃性物質、引火性物質（ろうそく、ランプなど）を製品の上に乗せない。
- 火気、可燃性物質、引火性物質を製品付近で使用または保管しない。
- 製品内の部品に水が入った場合、差し込みプラグを抜いてから弊社のサービスセンターに相談する。
- 電源コードをコンセントに差し込んだまま製品を移動させない。
- 子どもを含め、身体的・感覚的・精神的に不自由がある人は、保護者や、安全に配慮できる第三者の指示や監督のもとで本製品を使用する。

免責事項

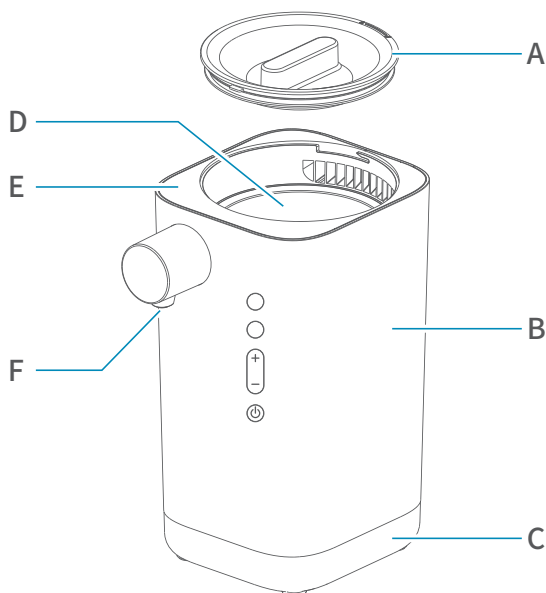
当社の責任以外による火災、第三者による行為、その他の事故、消費者の故意または過失・誤用、本製品の使用に適さない環境での操作や、取扱説明書の内容に従わなかったために発生した損害に対して、当社は一切の責任を負いません。

製品仕様と各部のなまえ

製品仕様

- 製品名：RAYCOP MILK MATE
- 容量：1.5L
- モデル名：ROM-100JPWH
- 製品サイズ：15x21x27cm(h)
- 正格電圧：AC 100V 50/60Hz
- 製品重量：約 1.6kg
- 消費電力：800W
- 保温温度：38～100°C

各部のなまえ



部品	なまえ	材質	耐熱温度
A	ふた	食品グレードポリプロピレン（上段）	120°C
		ステンレス SUS316（下段）	1000°C
B	本体	ポリプロピレン	120°C
C	土台	ポリプロピレン	120°C
D	タンク	ステンレス SUS316	1000°C
E	上段	食品グレードポリプロピレン	120°C
F	内部ノズル	BPA フリーシリコン	350°C
-	哺乳びんホルダー	ポリカーボネート	140°C

簡単な使用方法

⚠ 使用前の確認事項

- 初めてお使いになる際は、必ずポット内の残留研磨剤を除去し、注ぎ口を洗浄してください（12 ページ参照）。
- 水を入れずに製品を操作しないでください。
- 水を入れるときは、タンク内に記されている MAX ラインを目安にしてください。
- 洗浄およびお手入れ方法を必ず確認してください（13 ページ参照）。
- 電源コードはできるだけ壁面コンセントや電源タップに単独で接続してください。電力量が足りない場合、製品が正常に動作しないことがあります。

STEP 1

水を MAX ラインの下まで入れ、電源コードを差し込みます。

STEP 4

モードを選択したら、[+、-] ボタンで保温温度を設定します。

STEP 2

[⏻] ボタンを押して電源を入れます。
▶ パネルに現在の水温が表示されます。

STEP 5

保温温度を設定したら、選択したモードが自動で動作します。
▶ パネルに水温の変化が表示されます。

STEP 3

[モード] ボタンを押してモードを選択します。

STEP 6

[給湯] ボタンで水量を調整し、湯を出します。
▶ 水量調整可能 / 湯を注ぐ際は、設定した水量がパネルに表示されます。

- ※ 各モードはモード別の動作が終わると、保温モードに自動的に切り替わります。
- ※ 電源やモードをオフにするまで保温が維持されます。
- ※ 5分間使用しないと、ロックモードに切り替わります。[⏻] ボタンを押すと、ロックが解除されます。
- ※ 水量モード（LED 全点灯状態）で [+、-] ボタンを押すと、水量を変更できます。
- ※ 水量が正確でない場合は、微調整機能で調整してください（9 ページ参照）。

⚠ 注意事項

- ミネラル含有量の高い水を湧かすと、タンクにミネラルの白いあとが残ったり、沈殿物が発生したりすることがありますが、人体に害はありませんのでご安心ください。
- 水以外の液体や異物を入れないでください。注ぎ口の詰まりにつながります（粉ミルク、茶葉、ティーバッグなど）。
- 湯沸かし中は、背面の排気口に触れないでください。やけどの恐れがあります。

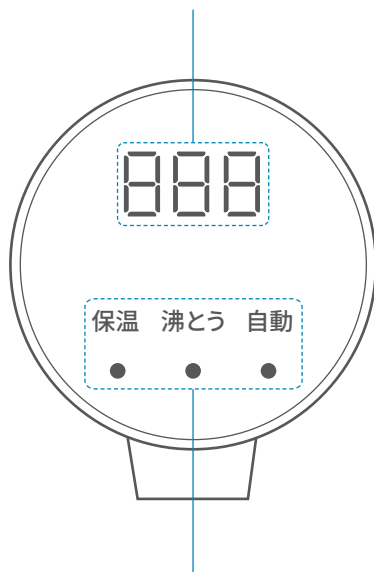
前面の表示パネルと操作部の説明

表示パネル

温度表示：現在の水温 / 設定した保温温度

水量表示：30～240(ml)

微調整表示：-99～99



選択モードの表示：保温、沸とう、自動、水量。

水量モードを選択すると、すべての LED ライトが点灯します。モードの選択または動作中には [保温]、[沸とう]、[自動] のうち一つに必ず LED ライトがついています（ロックされている場合も点灯します）。

表示パネルにライトがついていない場合は、モードが動作しておりませんので、ご希望のモードを再度設定下さい。

チャイルドロック（ロックモード）

5分以上使用しないと、短い「ピッ」という音とともにすべてのボタンにロックがかかります。ロックを解除するには、もう一度電源ボタンを押してください（タッチ操作のみロックがかかり、動作中のモードは維持されます）。

操作部

1 [給湯] ボタン - 必要な量だけ湯を注ぐ

- 短く 1 回タッチすると、定量の湯が出ます。設定した水量の湯が注がれ、再度ボタンを押すと止まります。
- 2 秒以上タッチすると、お好みで水量を調整できます。再度ボタンを押すまで湯が注がれます。ポット内に湯がなくなると、自動で給湯が止まります。

給湯

※ 沸とうまたは自動モードのまま長押しすると、動作中のモードが終了します（保温モードを除く）。
 ※ 湯を注いでいる途中でポット内の湯がなくなると、「ビビビ」という音とともに湯が止まり、動作中のモードが終了します。

2 [モード] ボタン - 希望する機能のモードを選択

- 温め / 保温モード（保温）
- 湯沸かしモード（沸とう）
- 自動モード（自動）
- 水量モード（給湯量設定）

モード

※ モードの変更：[モード] ボタンを押すと、順番に機能が切り替わり、水量モードを選択すると、すべての LED ライトが点灯します。
 ※ モードの選択：希望する機能の LED ライトが点灯したときにボタンを押さずに待っていると、その機能が選択されます。

3 [+、-] ボタン - 保温温度または水量を設定

- 保温、沸とう、自動モードで保温温度を設定できます（最低 38°C～最高 100°C）。
- 水量モードで注がれる湯の定量を設定できます（30～240ml）。
- 保温温度と水量を設定しておく、特に他のボタンを操作しなくても設定値どおりに動作します。
- 水量モードで [+、-] ボタンを同時に 2 秒間押しすると、水量の微調整ができます。

+

-

4 電源ボタン - 電源のオン / オフ、ロック解除

- 電源オン：1 秒ほど [電源] ボタンを押す。
- 電源オフ：3 秒以上 [電源] ボタンを押す。
- ロック解除：ロックがかかった状態で [電源] ボタンを 1 秒ほど押す。



モードの説明

- 用途に合わせて**温め / 保温モード（保温）**、**湯沸かしモード（沸とう）**、**自動モード（自動）**、**水量モード**のうち1つを選択してください。
- モードを選択すると、表示パネルに**保温**、**沸とう**、**自動**のうち選択した機能のLEDライトが点灯し、水量モードを選択すると、すべてのLEDライトが点灯します。
- 動作中には、選択したモードのLEDライトが常時点灯しています。

4つのモードの要約

- | | |
|------------------------------|--|
| 1. 保温モード で40°Cに設定すると | ▶ 湯を40°Cまで素早く温め、保温を維持する。 |
| 2. 沸とうモード で40°Cに設定すると | ▶ 湯を100°Cまで沸かし、自然に冷まして40°Cで保温を維持する。 |
| 3. 自動モード で40°Cに設定すると | ▶ 湯を100°Cまで沸かしてから、冷却ファンで素早く冷まし、40°Cで保温を維持する。 |
| 4. 水量モード で40mlに設定すると | ▶ どのモードでも給湯ボタンを1回押すと40mlだけ注がれる。 |

- ※ すべての温度設定は、「選択モードの修了後、保温温度の設定」を意味します。
- ※ 自動と沸とうモードでは、特に温度を設定しなくても100°Cまで沸とうします。
- ※ 自動モードでは、現在の水温が設定温度より熱いとすぐに冷却ファンが動作します。

1 保温

温め / 保温モード（保温）

- 温め：設定温度に合わせて水を温めたり、自然に湯を冷まします。
- 保温：保温、沸とう、自動モードでは、設定温度に達すると自動的に保温モードに切り替わります。

使用方法

- **その1**：[**モード**] ボタンを押して [**保温**] モードを選択します。
- **その2**：[**+**、**-**] ボタンを押して希望する保温温度を設定します（38°C～85°C）。

使用例

保温モードを40°Cに設定すると、40°Cに合わせて水を温めたり、冷まして保温を維持します。

- ※ 各モードは、設定温度に達すると自動的に保温モードに切り替わります。
- ※ 保温モードは、電源やモードをオフにするまで永久に維持されます。
- ※ 48時間を目安にポット内の水を入れ替えて、自動または沸とうモードで再度沸かしてください。

2 沸とう

湯沸かしモード（沸とう）

湯を100°Cまで沸かしたら、水中の残留塩素および細菌を除去するため5分間沸騰させたのち、設定温度になるまで自然に冷まして保温モードに切り替わります（沸とう→保温）。

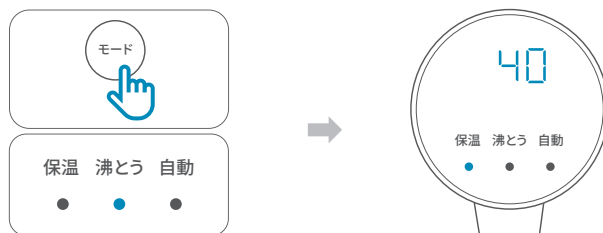
使用方法

- **その1**：[**モード**] ボタンを押して [**沸とう**] モードを選択します。
- **その2**：[**+**、**-**] ボタンを押して希望する保温温度を設定します（38°C～100°C）。

2 沸とう

使用例

沸とうモードを 40°C に設定すると、湯を沸かしてから自然に冷まして 40°C で保温を維持します。



[沸とう] → 自然に冷ましてから → [保温] に自動切替

- ※ 沸とうモードでは、別途温度設定をしなくても湯を 100°C まで沸かします。
- ※ 沸とうモードでは、冷却ファンが動作しないので静かです。
- ※ ポット内にクエン酸または酢を入れて沸とうモードを使うと、内部からノズルまで洗浄が可能です（13 ページ参照）。
- ※ 沸とうモードを 100°C に設定すると、100°C で保温が維持され、電源またはモードをオフにするまで熱湯消毒が可能です。念入りに洗浄を行いたい場合にお試しください。

3 自動

自動モード（自動）

湯を 100°C まで沸かしたら、水中の残留塩素および細菌を除去するため 5 分間沸騰させたのち、設定温度になるまで冷却ファンで素早く冷まして、保温モードに切り替わります（自動 → 保温）。

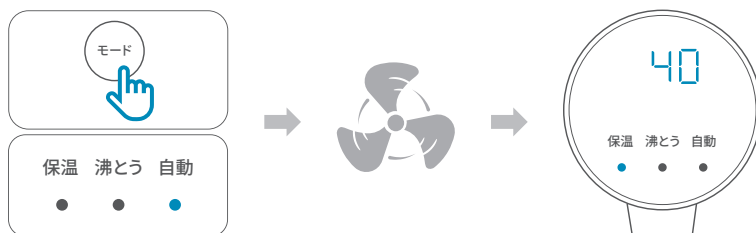
※ 現在の水温が設定温度より高い場合、すぐに冷却ファンが動作し、保温温度になるまで湯を冷まします。

使用方法

- ・ その 1 : [モード] ボタンを押して [自動] モードを選択します。
- ・ その 2 : [+、-] ボタンを押して希望する保温温度を設定します（38°C ~ 85°C）。

使用例

自動モードを 40°C に設定すると、湯を沸かしてから冷却ファンで素早く冷まし、40°C で保温を維持します。



[自動] → 冷却ファン → [保温] に自動切替

- ※ 自動モードでは、別途温度設定をしなくても湯を 100°C まで沸かします。
- ※ 冷却ファンで 100°C から 45°C に湯を冷ます場合約 60 ~ 80 分ほどかかります。

4 給湯量 - 水量

水量モード

30ml から 240ml まで、10ml 単位で水量を調整（その他海外粉ミルク用の 35ml、105ml、175ml も選択可能）

使用方法

- **その1**：[モード] ボタンを押して**水量モード**を選択します。
 - 水量モードでは、3つの LED ライトがすべて点灯します。
 - モードボタンを押したり、15 秒間操作しないと保温モードに切替わります。
- **その2**：[+、-] ボタンを押して水量を調整します。
 - 30～240ml の間で 10ml 単位で水量を調整。
 - 海外粉ミルク用の 35ml、105ml、175ml も選択可能。
 - [+] または [-] ボタンを長押しすると、より効率的に調整可能。
- **その3**：どのモードでも [給湯] ボタンを押すと、設定した水量の湯を注ぐことができます。
 - **短く1回タッチすると**、定量の湯が出る。
設定した水量の湯が注がれる（1～5 ml ほどの誤差あり）。再度ボタンを押すと湯が止まる。
 - **2秒以上タッチすると**、自分で水量を調整できる。
再度ボタンを押すまで湯が注がれる。再度ボタンを押したり、ポット内に湯が残っていないと、ボタンを押さなくても湯が止まる。[沸とう] モードや [自動] モードのまま長押しすると、動作中のモードが終了する。



[モード] ボタンを押すと、保温→沸とう→自動→水量→保温の順に切替。

※ 1度設定した水量で湯を注いだら、電源をオフにしてもメモリーに記憶されます。水量モードで再設定できます。

※ 微調整機能で水量の誤差を調整したり、水量を 1ml 単位で調整したりできます（9 ページの微調整機能参照）。

水量の微調整

給湯量 - 水量の微調整

水量モード - 微調整機能

基本水量の誤差を調整したり、1 ml 単位の水量調整が必要な場合に使用

使用方法

- **使用前に**：まず**設定された水量**と**実際に注がれた水量**を比較してください。
 - 水量の誤差はその都度異なる場合があるため、水量を変更する度に確認してください。
 - 30 ～ 120ml の間では誤差は非常に少ないですが、130ml からは誤差が大きくなる場合があります（最大± 20ml）。
- **その 1**：水量モードにして [+、-] ボタンを同時に 2 秒間押します。
 - 数字が点滅し始めたら、微調整の操作を開始します。
 - モードボタンを押したり、15 秒間操作しないと水量モードに切替わります。
- **その 2**：[+、-] ボタンを使って、微調整の設定値を 1 ml ずつ調整します。
 - 最初に表示される数字は 0 でない場合があります（現在表示される数字を基準に調整される）。
 - **現在の水量より 1 ml 少なく注ぎたい場合** ▶ 現在表示される数字から - 1 をする。
 - **現在の水量より 1 ml 多く注ぎたい場合** ▶ 現在表示される数字に + 1 をする。



水量モードにして [+、-] ボタンを同時に押すと、微調整機能開始。

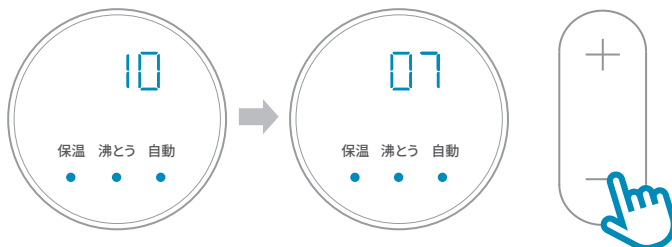
※ 製品を出荷する前に、微調整機能を使って水量の誤差を調整してから出荷するため、微調整機能の初期設定値が「0」ではない場合があります。

※ [+、-] ボタンを同時に押す際、2本の指が同時にタッチされないようご注意ください。

給湯量 - 水量の微調整

使用例

- 設定した水量は 40ml なのに実際の水量は 43ml の場合、3 ml が少なく注がれるように微調整。
▶現在の設定値（微調整モードで表示される数値）が 10 の場合、現在の設定値から -3 をすると 3 ml が少なく注がれます。



水量

- 設定した水量：40ml
- 実際に注がれた水量：43ml
▶ -3ml の調整が必要

微調整

- 現在の設定値：10
- 微調整後数値：10 - 3 → 7
現在表示されている数字から - 3 を調整する。
▶調整後の水量：43ml - 3 ml → 40ml

- 設定した水量 240ml。実際の水量は 222ml の場合、18ml が多く注がれるように微調整します。
▶現在の設定値が -5 の場合、現在の設定値に + 18 をすると 18ml が多く注がれます。



水量

- 設定した水量：240ml
- 実際に注がれた水量：222ml
▶ +18ml の調整が必要

微調整

- 現在の設定値：- 5
- 微調整後数値：- 5 + 18 → 13
現在表示されている数字に + 18 を調整する。
▶調整後の水量：222ml + 18ml → 240ml

※ 微調整を設定すると、次からすぐに基本水量に適用されます。
 ※ 微調整の設定値を変更しても、表示パネルに表示される基本水量の数値は変わりません。
 ※ 微調整を設定しても、若干の誤差はある場合があります (0.8 ~ 1 ml)。

追加機能の説明

1 設定温度の記憶（スマートメモリーシステム）

正常にオフにしてから再度モード機能を動作する際、利用者の便宜を考慮し、最近設定した保温温度に自動設定されます。

※ 電源コードを抜くと、初期設定温度の 45°C に初期化されます。

2 自動ロックモード（チャイルドロック）

- ロックモード：5分以上使用しないと、短い「ピッ」という音とともにすべてのボタンにロックがかかります。

※ ボタンにのみロックがかかり、設定したモードは動作し続けます。表示パネルにライトがついていない場合は、モードが動作していないという意味ですので、必ず点灯有無を確認してください。

- ロック解除：ボタンのロックを解除するには、電源ボタンを約1秒ほど押します。

※ 電源ボタンを3秒以上長押しすると、電源がオフになり設定したすべての機能が止まりますのでご注意ください。

3 塩素除去および殺菌機能

湯沸かしモード（沸とう）や自動モード（自動）を使うと、湯を 100°C で 5 分間沸かして残留塩素および細菌を除去します。

4 内部洗浄

ポット内に酢またはクエン酸を入れて沸とうモード（沸とう）を動作（5分間沸騰させたのち、[給湯]ボタンですべての湯を排水）すると、ステンレスの水タンクから内部、ノズルまで洗浄頂けます。

お使いになる前の研磨剤除去および洗浄方法

製造工程上、製品に研磨剤などが残っている場合がございます。

製品を出荷するまで数回洗浄作業が行われますが、より安全にお使いいただくため、ご使用前に以下の手順に沿って洗浄を行ってください。

お使いになる前の研磨剤除去

⚠ 確認事項

- ・ 製品出荷前の全数検査により、水タンク内に水分や、水の跡が残っている場合があります。
- ・ サラダ油や酢などが完全に洗浄されない場合、変色の原因になります。
- ・ 表面が粗いたわしなどを使うと、ステンレスの表面に傷がつく恐れがあります。
- ・ ポット背面に開いている複数の穴に水が入らないようにご注意ください。

その1

キッチンタオルにサラダ油をつけ、水タンクをくまなく拭き、新しいタオルでサラダ油を拭きとる。

- ・ ステンレスの表面にサラダ油が残らないように、キレイなキッチンタオルでできるだけ拭き取ります。
- ・ キッチンタオルに黒いあとがついても、次のステップに移ってください。残りの研磨剤はクエン酸や酢で除去できます。

その2

水を MAX ラインの下まで入れ、クエン酸スプーン 1.5 杯、または酢スプーン 4 杯を入れて [沸とう] モードで 5 分間沸かす。その後 [給湯] ボタンを押し、中身の湯を全て排水する。

- ・ 洗浄力が弱くなりますので、クエン酸と酢は混ぜて使用しないでください。
- ・ クエン酸と酢を順に使用する際は [クエン酸→水で内部をすすぎ排水→酢] の順に使用してください。
- ・ 5 分間使用しないと、ロックモードに切り替わります。電源ボタンを押すと、ロックが解除されます。

その3

残りの残留物を除去するために再度湯を沸かして全て排水し、最後にもう一度水を入れて沸かさずに全て排水します。

- ・ 繰り返し湯を沸かすと、機器本体が熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- ・ 初めての洗浄時は、黒い水が排水される場合があります。これは、タンクに残っていた研磨剤が洗浄され排水されているためです。
- ・ 長時間湯を沸かすと、粉のような浮遊物が浮いてきたり、タンクの表面に付いたりする場合があります。これは、水の蒸発によって水中のカルシウムやマグネシウムが表面に浮いてきたもので、水に含まれるミネラル成分ですのでご安心ください。
タンクに付いた白いミネラル成分が気になる場合は、次ページのお手入れ方法で除去してください。

その4

ふたの洗浄

ステンレス部を、サラダ油をつけたキッチンタオルで拭いた後、食器用洗剤をつけたスポンジで洗浄し水ですすいでください。変形の恐れがありますので、熱湯で消毒を行ったり、食器洗浄機に入れられない様にしてください。

哺乳びんホルダーの洗浄

食器用洗剤をつけたスポンジで洗浄し、水ですすいでください。

変形の恐れがありますので、熱湯で消毒を行ったり食器洗浄機に入れられない様にしてください。

洗浄およびお手入れ方法

洗浄およびお手入れ方法：毎週または隔週で洗浄

確認事項

- 洗浄周期については使用状況によって個人差があります。
- 内部洗浄の際は、水道水を使用しても問題はありません。
- ふたの上段と哺乳びんホルダーは食器用洗剤を使って洗います。熱湯消毒したり、食器洗浄機に入れたりしないでください。
- 湯沸かし後に残った白いあとは、水に含まれるミネラル成分なので人体に害はありません。気になる場合は、ミネラル含有量の低い水を使用するか、週に1度洗浄し取り除いてください。

その1

水を MAX ラインまで入れ、酢スプーン4杯、またはクエン酸スプーン1.5杯を入れて [沸とう] で沸かします。

その2

沸かした酢またはクエン酸の湯を [給湯] で全て排水します。

その3

残りの残留物を除去するために再度湯を沸かして全て排水し、最後にもう一度水を入れて沸かさずに全て排水します。

- ステンレスの水タンクから、内部の見えない部分まで洗浄され、水アカや異物が除去されます。
- 連続的に湯沸かしと排水を繰り返すと、機器本体が過熱し [E3 過熱保護モード] に切り替わる場合があります。
電源コードを抜いて数時間ほど本体を冷ましてから、再度電源を入れてください（壁面コンセントや電源タップに単独で接続してください。消費電力の高い家電製品と一緒に使用する場合は、高容量の電源タップに接続してください）。

TIPS**白いあとや褐色の汚れを落とす方法**

白いミネラルのあとや褐色の汚れはアルカリ性成分でできているため、洗剤では除去できません。酸性成分である酢またはクエン酸を入れ湯を沸かすと、キレイに除去できます。

- **方法 A**：水 300～400ml にクエン酸 1 じぎを入れ、沸とうモードを 100℃に設定して 20～30 分間沸かします。
 - **方法 B**：方法 A を使っても消えない場合は、沸かしたクエン酸または酢水をポット内に入れてたまま 6 時間以上放置した後、柔らかいスポンジなどでタンクの表面を拭き取るように洗ってください。
- ※沸とうモードの保温温度を 100℃に設定すると 100℃で保温されるため、モードを変更するか電源をオフにするまで沸とうし続けます。

※沸かした湯は、機器本体を持ち上げてそのまま全部捨ててください。

同封された洗浄ブラシの使用方法

同封された洗浄ブラシは、浄水器用の洗浄ブラシと同じ素材のものです。3 か月程度に一度の頻度で注ぎ口の内部を洗浄してください。

⚠ 注意事項

- 機器本体を水に浸けないでください。
- 漂白剤やその他化学薬品を使用しないでください。
- 鉄製や粗い素材のたわしは使用しないでください。
- ステンレスの腐食につながる揮発油、アルコール、アセトンなどは使用しないでください。
- 電源コードが水に濡れないようにご注意ください。

清潔に使用するためには、定期的に洗浄および、お手入れすることをお勧めします。洗浄せずに放置すると、水アカ、石灰（カルシウム、マグネシウム）などが発生する場合があります。また、使用しないときは、必ず水気を除去し乾燥させた状態で保管してください。

よくある質問

質問	予想される原因	処置方法
水の温度が上がりにません。	温度センサーとの接続が切れています。	電源をオフにし、完全に冷めるまで待ってから再度操作してください。
	自動モードでは、現在の水温が設定温度より高い場合、沸騰せず冷却ファンが動作します。	自動モードを選択し、設定温度を現在の水温より高く設定してください。
	電源タップに複数の製品を一緒に接続して使用しているため、電力量が不足します。	壁面や電源タップに単独接続するか、大容量の電源タップを使用してください。
水量に誤差があります。	製品が配送される際、揺れや衝撃によって水量に誤差が発生しました。	9ページの微調整機能の説明を参照して、水量の誤差を調整してください。
前面ディスプレイに[E3]という文字が表示されます。	E3は、過熱防止モードを意味します。一時的に動作が制限されます。	電源コードを抜いて数時間ほど機器本体を冷ましてから、再度電源を入れてください。
底にうぐいす色 / 白色 / 虹色のあとがつかまりました。	製品使用前の初めての洗浄の際に、サラダ油を完全に除去せずに湯を沸かすと、うぐいす色のあとがつかまります。	沸とうモードを100℃に設定し、水にクエン酸を混ぜて約20分間沸かしてください。
	水が蒸発し、水に含まれるミネラル成分が白く残ったものです。	ミネラルのあとは人体に害はありませんが、気になる場合は、13ページのお手入れ方法で取り除いてください。
	ステンレス素材の特性上、製品使用による褐変現象が発生する場合があります。	沸とうモードを100℃に設定し、水にクエン酸を混ぜて約20分間沸かしてください。
製品を受け取りましたが、水タンクに水気が残っています。使用済みのものではありませんか？	出荷する前に全数検査を行ってから出荷しているため、製品に水気が残っている場合があります。	12ページを参照し、残留研磨剤除去の清掃を行ってご使用を開始してください。
お湯を沸かしたら、白い結晶のようなものが浮いています。	水中のミネラル成分が空気中の二酸化炭素に触れ、白い結晶（炭酸カルシウム）が発生することがあります。	ミネラル含有量が高い水を使用した場合に発生する現象で、人体に害はありません。気になる場合には、ミネラル含有量の低い水をご使用下さい。
お湯の味が変です。	注ぎ口の洗浄をしていない。	沸とうモードにして酢水を沸かし、注ぎ口から湯を出してから、注ぎ口専用ブラシを使って洗浄してください。
	ステンレスに残っている研磨剤の除去をしていない。	12ページを参照し、残留研磨剤を除去する洗浄を行ってください。
電源はついているのに、ボタン反応しません。	5分間使用しないと、ロックモードに切り替わります。	電源ボタンを1秒以上押してロックを解除してください。

保証書

※製造番号

保証期間

お買い上げの日から1年間
(消耗品を除く)

※販売店名

※お買い上げ日

本書は日本国内においてのみ有効です。 Valid only in Japan.

※お客様

氏名 様

ご住所 〒

電話

このたびはレイコップ製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
この製品は、当社の厳密な品質管理及び、検査を経て出荷されております。
万一、正常な使用状態で故障した場合、本書記載の無料修理規定（下記に記載）により、無料修理をいたします。
購入証明（レシート等）と本書の2点をお持ちでしたら本書に販売店名の記入がない場合でも無料修理を承ります。

※印欄は修理を依頼される際は必ずご記入ください。

☞ 無料修理を行う際は本書と購入証明（レシート等）が必要です。
大切に保管してください。

〈無料修理規定〉

- 取扱説明書、本体添付ラベル等の注意事項に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理ご希望の場合にはお客様サポートセンター（0120-363612）にご相談ください。
(ロ) もしくは、商品に本書と購入証明を添えてお買い上げ販売店にお申し付けください。
- 保証期間内でも次の場合には有料とさせていただきます。
(イ) 取扱説明書に従わない使用上の誤り又は弊社以外の者による修理や改造による故障もしくは損傷
(ロ) お買い上げ後の輸送もしくは落下などによる故障もしくは損傷
(ハ) 火災、地震、水害、落雷、そのほかの天災地変又は公害、塩害、ガス害（硫化ガスなど）、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障もしくは損傷
(ニ) 車両、船舶などで使用する場合に生じる故障もしくは損傷
(ホ) 一般家庭用以外（業務用など）に使用された場合の故障もしくは損傷
(ヘ) 本書の添付がない場合
- 当社は本規定の内容を変更する場合がございます。この場合、保証の提供条件は変更後の修理規定によるものとさせていただきます。なお、変更後の修理規定については、当社ホームページ等により通知し、通知後1週間を経過した日より、適応されるものとします。
- 修理において、当社の合理的判断により、修理に代え製品の交換に対応する場合がございます。交換する製品は新品同様の同一製品、または同等機種の代替製品となります。
- 本書は日本国内において商品を使用する場合のみ有効です。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。

修理メモ

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書控）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させて頂く場合がございますので、ご了承ください。
※この保証書は本件に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理を行うことをお約束するものです。従って、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証内容の詳細については、取扱説明書の「保証とアフターサービス」を参照ください。
※保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、お客様サポートセンター（0120-363612）にお問い合わせください。



お客様サポートセンター 0120-363612

受付時間 平日午前9:00~午後5:30（土日祝日、年末年始を除く）

取扱説明書に記載された内容は、2023年10月現在のものです。